

富谷小だより

渋谷区立

富谷小

学校通信

オーナーシップを育てる

校長 石川 亜由美

夏休みの間に5年生と那須自然体験教室に、6年生と日光高原学園に行って来ました。

5年生と一緒に那須の宿舎に着いたとき、オーナーの方が「富谷小学校の子供たちは、とても気持ちのよい子たちだったので、今年も楽しみに待っていました。」とおっしゃって笑顔で迎えてくださいました。昨年度の5年生、つまり、今年度の6年生の行動がオーナーの心に残っていたということです。

オーナーが「気持ちのよい子たち」と感じたのはどのようなことからだろうと考えてみました。

まず思い浮かぶのは、「挨拶や返事をきちんとする」、「お世話になったことに対して感謝する（お礼の言葉を伝える）」、「正しく敬語を遣う」など、宿舎の方と直接かかわっているときの言動です。また、「きびきびと行動する」、「時間を守る」、「相手の話をきちんと聞く」、「自分の役割を果たす、協力する」、「使った場所をきれいにする」、「迷惑をかけたときに素直に謝る」などの行動も浮かんできました。

どれも社会生活を送るうえで当たり前でできてほしい振る舞いです。しかし、自分のことだけを考えていたら、この振る舞いはできません。相手や周りの人を尊重する気持ちがあるからこそできる行動だと思います。

さて、今年の5年生が自然体験教室に立てためあては、「3つのあ あいさつ、あつまり、あとしまつ」でした。まさに、社会生活の中で自然にできてほしい振る舞いです。そして、今年の5年生も、このめあてを意識して行動しようと心掛けることができました。さらに、登山のガイドさんや見学した牧場の方に積極的に質問して自ら学ぼうとする姿、キャンプファイヤーなどの活動で自分の役割を果たしたり、友達に協力して一緒に盛

り上げたりする姿も見られました。



6年生の日光高原学園では、スローガン「最後の一年!悔いなく楽しい宿泊にしよう!」のもと、全員が同じ意識を高くもって行動していました。大人の声かけを待つのではなく、先を見通し、自分たちで考えたり声をかけ合ったりして行動し、昨年度よりもさらに成長した姿を見せていました。



オーナーシップという言葉があります。端的にいうと「一人一人が当事者意識をもって課題に取り組む姿勢」です。宿泊学習では、5年生からも6年生からもこのオーナーシップの芽が感じられました。それは、2泊3日の過ごし方について、実行委員を中心に自分たちで話し合っただけでなく、準備してきたからだと思っています。

これからの予測困難な社会を主体的に生きていくためには、誰かの指示を受けて動くのではなく、課題を見付け、課題に対して自分で考え、最適解を見付けて行動する力が重要になります。探究的な学習の時間や日常の学校生活の中でも、「オーナーシップ」が育つように、発達段階に応じて指導していきたいと思っています。